

令和7年度自己評価結果

種 別 児童自立支援施設
施設長 名 佐藤 かおる
実施日 令和8年1月1日～2月7日
自己評価分析実施日 令和8年2月16日
自己評価分析会議参加者 園長、副園長、課長、男子寮L、女子寮L、総務L

【自己評価結果（詳細は別紙参照）】

1 良かった点

- ① 性教育の実施について、性教育委員会を設置し、独自の性教育プログラムの開発を行った。そのプログラムに基づき、児童に向けた講習と個別の振り返り、職員への研修を実施し、長年の課題であった性教育の充実について大きく前進した。
- ② 児童の権利擁護について、ルールの見直し、プライバシーに配慮した居室環境作りなどを積極的に行い、児童の権利を護る取り組みを一層推進し、一定の成果を上げた。

2 課題

- ① 心理担当職員や女子寮の当直補助職員など、一部職種の欠員が続いている。公的機関からの募集だけでなく、地元の大学などに積極的な募集活動をしているが、採用に結びつかないため、更に工夫した募集活動を実施していく必要がある。
- ② スポーツや文化活動を通じて外部との交流は実施しているが、施設の近隣地域との交流は、入所する児童の特性上、交流の難しさがあり、「地域との交流や地域貢献」という項目で評価が低くなっている。引き続き、児童自立支援施設としての外部との交流のあり方や方法などを検討していく必要がある。

3 まとめ

今回の自己評価で良い評価を得られた項目については、この評価を維持・向上できるように次年度以降も努めていく。

低評価だった項目については、例年同様の課題が継続しているため、改善に向けた取り組みを一層進めていく。